

防滑性

床材の滑りにくさは安全・安心の空間づくりのために欠かせない機能です。
 ロボフロアーは乾燥時や水濡れ時のどちらの場合でも高い防滑性能を保持します。

■タイルカーペット防滑性試験データ

商品	CSR値		
	乾燥時	水濡れ時	
アスワンロボフロアー	0.74	0.75	水濡れデータは、水だけで濡らした状態。
複層ビニル床タイル防滑性タイプ	0.75	0.63	
コンポジションタイル	0.77	0.50	
ビニル床タイルプリント品(鏡面)	0.87	0.35	

※上記の試験結果は測定値であり、保証値ではありません。

■CSR値とは？

JIS A 1454(斜め引っ張り試験)の防滑性試験結果によって示され、数値が大きいほど滑りにくく、小さいほど滑りやすい。このCSR値は、床材の材質や水濡れなどの表面形状によって決まるが、履物の種類によっても変化します。

■水に濡れた場合の条件下での滑り性を評価しています

CSR値	状態変化	用途の目安
水濡れで0.80以上	水濡れ時、影響を受けにくく転倒しにくい。	高防滑性が求められる場所
水濡れで0.55以上	水濡れ時、影響を受けにくい。	マンション通路、調理室、トイレなどの水の介在する可能性の高い場所
-	水濡れ時など、床表面の状態が変わると転倒しやすい。	水の介在する可能性が低く、通常の歩行が行われる場所

■ポイント

適切な滑りをもつ床の基準

- ①「水や土砂が付着した状態」でも滑りにくいこと
- ②「付着物のない状態」と「水や土砂が付着した状態」の滑りやすさの差が小さいこと
- ③「付着物のない状態」で極度に滑りにくいこと(つまづきが生じないこと)

参考：東京都福祉のまちづくり条例設備マニュアル(平成21年度版)によると原則としてCSR値が以下の値を満足する材料、仕上げとすること。ただし、体育館の床など激しい動作を行う箇所についてはこの限りではない。

- ・下足で歩行する部分 0.40～0.90
- ・上足で歩行する部分 0.35～0.90
- ・裸足で利用する部分 0.45～0.90
- ・傾斜路部分 0.50～0.90

※同一の床において滑り抵抗に大きな差(CSR値で0.20以上)がある材料の複合使用は避ける。突然滑り抵抗値が変化すると滑ったりつまづいたりする危険が大きい。
 ※激しい運動動作を伴う箇所では、あまり滑らない床も危険である。

保温性

居住性や作業性を高める、適度な熱伝導率。
 省エネ効果も高く空間のランニングコストを軽減します。

カーペットならではの暖かさやソフトな感触は、医療施設や老人ホームの居住性に大きく貢献します。またOA機器を使用するオフィスワークでは、足腰の冷えと目の疲れは密接な関係があるといわれています。居住性と作業効率の両面から、カーペットの持つ保温性能が有効とされています。

■熱伝導率比較表

物質の中の熱の流れやすさを示す物性が熱伝導率です。構造的に空気層を持つカーペットは、一般的にモルタルやレンガ、床用プラスチックタイルなどの硬質床材と比べて、断熱・保温効果が高い床材です。保温・断熱したい場合は、熱伝導率の低い材料を選定する必要があります。

タイプ	全厚(mm)	熱伝導率(W/m・℃)
ロボフロアータイル	5.3	0.276
ロボフロアーシート	4.3	0.163
タフト製タイルカーペット(ナイロンパイル)	6.5	0.204
タフトカーペット(ナイロンパイル)	6.0	0.146
タフトカーペット(ウールパイル)	9.0	0.062

・熱伝導率 熱線法にてアスワン独自の試験方法で実施。

※上記の試験結果は測定値であり、保証値ではありません。